

6 評価対象課題の研究内容と評価結果(概要)

研究課題	3 いわたの重要な自然環境の保全を目的とした希少植物の保護に関する研究(19-23)
研究目的・背景	本研究では、岩手県においても存続が危ぶまれる植物からアツモリソウを中心に種の保存を進めるための技術開発に取り組む。この取り組みを柱に希少植物のおかれた状況を把握し、有効な保全対策を追究する。本研究で開発した技術は、保全政策に役立てるのはもちろん、県内外で同様の取り組みを行っている関係機関への技術的援助、さらには地域産業振興などに応えられるよう広域的な活用を探るよう取り組む。
研究結果	<p>① アツモリソウの自生地の現状を調査するとともに、現在の苗生産技術について課題を明らかにし、培養法の開発を進めた。作出した培養苗を遠野ふるさと村自然林内に供給し、野生復帰試験を行った。(岩手県自然保護課から環境省自然環境局野生生物課に生息域外保全活動として報告)</p> <p>② 希少種の確認調査を実施し、いわてレッドデータブックの絶滅種、情報不明種、未掲載種の確認を行った。その結果、絶滅種であったアオキランを46年ぶりに確認した。</p> <p>③ ハヤチネウスユキソウ、ムラサキなど、本県と深い関係を持った絶滅危惧植物の苗生産法を開発した。</p> <p>④ 東日本大震災の津波が沿岸部の希少植物に及ぼした影響を調査した。保護対策の緊急性が高いと判断したエゾオグルマやハマナデシコについて自生地の保全活動を進めた。</p>
評価結果	<p>○総合評価 A(3人)・B(3人)・C(0人)・D(0人)</p> <p>○総合意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・希少種のアツモリソウの自生地の分布や増殖技術を確定しており、当初の目的は十分に達成していると判断した。また、震災による沿岸域の希少植物の調査も行っており、データの統合的な整理と今後の継続調査を是非行ってほしい。 ・研究成果は目標をほぼ達成したといえる。 ・絶滅危惧種について、自生地調査と保全をとおして絶滅種の再発見と新規確認をできたこと、また苗生産法の開発によりアツモリソウの増殖に成功したことは大いに評価される。 ・希少植物の保護は重要であるが、一つの研究機関で行うには大きな課題と思われる。国、他県の研究機関、施設等と連携して行う必要があると考えられる。 ・岩手県内の希少種の状況を明らかにしたことは高く評価される。震災後の状況を踏まえ自生地保全の検討をさらに進めていただきたい。 ・岩手県の希少植物の実態把握を精力的に行っていることや、増殖技術の確立、及び多くの発表業績等については高く評価できます。ただ、現在わずかに残っているアツモリソウをどうして行けば良いのか、生息域外保全の見通しは十分あるのか、発表を聞いた限りでははっきりしていないように思い少し評価を下げました。今後の取り組みに期待しています。
センターの対応方針	<p>1 完了</p> <p>アツモリソウに代表されるいくつかの希少種について、新たな増殖技術を開発できたことは大きな成果である。</p> <p>今後は自然保護行政の中で、他の関係機関と連携して、種の保全のための施策に貢献していきたい。</p> <p>また、この増殖技術等を地域の産業振興にも役立てることを目指したい。</p> <p>なお、大震災津波による植物群等への影響については、長期的な取り組みが必要であり、今後とも可能な限り調査を続けたい。</p>